

分でやる力を重んじて「NOは言わない」のが原則です。

「フルタイムママ」が見つけた、娘にあった教え方

ジェーンさんがこの教育法に出会ったきっかけはひよんなことでした。「1700パーツの高いおもちゃを買ったのに、娘は2回しか遊ばなかったの。もったいないでしょう？それで、ほかにはどんなおもちゃがあるんだろう、と検索したんです」。

見つけたのは、おもちゃで自由に遊びながら、その背景にある仕組みを理解し、何をすべきかを自分で考える力が身につくという教育法。準備するものは市場で揃うような身近な素材で、あとは子どもが安心して遊べる環境を整えるだけ。講習会に参加したジェーンさんは、自宅に戻るとさっそく小さな棚をひとつ作り、道具のセットを用意して、娘さんを遊ばせました。「娘が夢中になってね。集中するんです。すごく。それで夏休みになると娘のお友達も誘って同じように遊ばせてみました。それがとっても好評で」。どの子に対しても熱心に向き合うジェーンさんに、ご主人は言ったそうです。「幼稚園、やってみたら？」。それがこの幼稚園の始まりでした。

子どもの持っている力を伸ばしたい

ジェーンさんの幼稚園では子どもたちがのびのびしています。一人でじっくり遊ぶ子もいれば、みんなでおやつを楽しもうと働きかける子もいます。「子どもはそれぞれ。いろいろな個性のある子どもたちを受け入れて、それぞれの可能性を広げていきたいです」。キャリアウーマンからフルタイムママになり幼稚園を作ってしまったジェーンさんは、もうすっかり教育者です。

幼い頃から自分で解決し工夫する力を身につけた娘さんはもう10歳。塾へ通う同級生も多いなか、わからないことは先生に質問するなど学校の授業だけに集中して自分のやり方で勉強しているそうです。母・ジェーンさんに導かれて、自分の力で学ぶことのできる生徒さんに成長したんですね。



「どうやって遊ぼうかなあ」。自分で遊ぶ方法を考える。そして工夫してみる



自分がやりたいことをやっていいんだよ。部屋にひとりで絵描きに集中する



「ぼくはこうやって遊ぶよ」「へえ〜」 それぞれに興味や方法が違って当たり前

マレットファンとの出会いは？
How did you meet Maletfan?

「インターネットでマレットファンのことを知って、絵本のイベントに参加したのがマレットファンとの出会いです。日本から来た加藤啓子先生に絵本の読み方を教わり、絵本がクリエイティブで想像力をかきたてるものなんだから初めて知りました。マレットファンが主催する日本のスタディツアーにも参加しました。幼稚園から大学の教育学部、障がい者のサポート施設まで訪問し、日本の教育の全体像を知ることができました。視察場所の選定も準備もアテンドも素晴らしくて、私が参加した後も継続して幼稚園の先生に参加してもらっています。マレットファンの3人は本当に熱心。その熱意にはいつも驚かされています。

ジェーンさんのマレットファン（夢のたね）は？
What's your "Maletfan"?

小学生向けにモンテッソーリ教育法のクラスを作ること。子どもたちがトライ＆エラーを繰り返しながら学ぶ場をもっと作りたいです。